平成　24　年度事後評価・決算

事務事業マネジメントシート

平成 26 年 2 月 7 日時点

事務事業名				課	社会福祉課		
	コード1	12900	敬老大会開催事業	所属班	社会班		
	コード2		□ 主要事業	電話番号	62-5317	内線	144

政策体系				予算科目	会計	款	項	目
	基本方針	3	健やかでやすらぎのあるまちづくり		一般会計	3	2	1
	施策	4	高齢者福祉の充実	根拠法令				
	施策の展開	4	生きがいづくりの推進					
	基本事業							

1 現状把握（Do）

（1）事業概要

① 事業期間	② 事業の内容　※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☑ 単年度繰返 □ 平成＿年度～ ☑ 開始年度不詳 □ 期間限定複数年度 平成＿年度～ 平成＿年度まで ※全体像を記述⇒	敬老の日に市内3会場で敬老大会を開催。来場者にパン・お茶を配布し、旭市文化協会・保育所等による演芸やお遊戯等を見ていただき楽しんでもらい、敬老思想を広めて、高齢者福祉の充実につなげる。 旭：2部（10:00～12:30、14:00～16:30）　東総文化会館　①開会挨拶、②演目（演芸、お遊戯等） 海上：1部（10:00～14:30）　海上公民館　①開会挨拶、②演目（演芸、お遊戯等） 飯岡：1部（10:00～14:00）　いいおかユートピアセンター　①開会挨拶、②演目（演芸、お遊戯等） 【業務の流れ】 出演団体打合せ準備会　→　対象者へ案内ハガキ送付　→　会場準備　→　敬老大会開催

（2）トータルコスト

① 事業費の内訳（24年度の実績）		単位：千円
1.報償費	280	演芸謝礼
2.需用費	772	消耗品費・食料費・印刷製本費
3.役務費	610	案内葉書郵送料
4.使用料及び賃借料	461	バス借上げ・文化会館借上げ料
5.その他	0	

② 延べ業務時間の内訳（24年度の実績）	単位：時間
事前準備　54時間　・　前日会場準備　56時間　・　敬老大会開催3会場　392時間	

			単位	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（決算）	25年度（計画）
事業費	費目内訳	1. 報償費	千円	280	280	280	280
		2. 需用費	千円	813	794	772	877
		3. 役務費	千円	559	643	610	675
		4. 使用料及び賃借料	千円	423	469	461	532
		5. その他	千円				
	事業費計（A）		千円	2,075	2,186	2,123	2,364
	うち一般財源		千円	2,075	2,186	2,123	2,364
人件費	正規職員従事人数		人	0.25	0.25	0.25	0.25
	延べ業務時間		時間	502	502	502	502
	人件費計（B）		千円	1,908	1,908	1,908	1,908
トータルコスト(A)＋(B)			千円	3,983	4,094	4,031	4,272

（3）事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段

① 主な活動

24年度実績（24年度に行った主な活動）
市内3会場において敬老大会開催

25年度計画（25年度に計画している主な活動）
市内3会場において敬老大会開催

⑤ 活動指標名

		単位	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（決算）	25年度（計画）
ア	敬老大会参加数	人	1,561	1,730	1,747	2,000
イ	演目数	件	142	144	154	154
ウ	演芸・遊戯参加者数	人	655	590	633	633

目的

② 対象（誰、何を対象にしているのか）

市内に居住する70歳以上の高齢者

⑥ 対象指標名

		単位	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（決算）	25年度（計画）
ア	70歳以上高齢者数	人	12,599	12,849	13,022	13,144
イ						

③ 意図（対象がどのような状態になるのか）

長年にわたり、社会に貢献されてきた高齢者に尊敬の意を表すとともに、高齢者の交流を促進し、敬老大会に来場することにより長生きしてよかったと感じていただく。

⑦ 成果指標名（考え方）

		単位	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（決算）	25年度（計画）
ア	敬老大会参加率 (敬老大会参加数/70歳以上高齢者数)	%	12.4	13.5	13.4	15.2
イ	(　　)					

上位目的

④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか

今後も生きがいを見出して、長寿で健康に過ごしていただく。

⑧ 上位成果指標名（考え方）

		単位	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（決算）	25年度（計画）
ア	高齢者に占める要介護認定者の割合 (65歳以上要介護者認定者数/65歳以上高齢者数)	%	12.6%	13.5%	13.6%	14.1%
イ						

（4）事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？
合併前から旧旭市・海上町・飯岡町で実施しており、高齢者福祉の充実を図るため現在まで継続実施している。	・17年度に1会場で開催し、芸能人を招いたが、参加者数が少なく、地区懇談会でも地区開催の要望が多かったことから、18年度から現在の3会場で芸能人を呼ばずに実施をしている。 ・高齢者数は年々増加傾向にある。高齢者のみの世帯も増加している。	・敬老大会に参加した方からは、楽しませてもらった等の意見はいただいている。

事務事業名	敬老大会開催事業	課名	社会福祉課	班名	社会班

2 評価（Check1）担当者による事後評価

目的妥当性評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☑ 結びついている ⇒【理由】 敬老大会の実施により、高齢者の交流を促進し、生きがいづくりを推進できる。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☑ 適切である ⇒【理由】 高齢者数が増加する中で市内の70歳以上高齢者を対象とすることは適切と思われる。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☑ 妥当である ⇒【理由】 地域で開催することも考えられるが、地区役員の方の負担が増えるため、市が関与して開催する必要がある。
有効性評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☑ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 近隣では、実施している市が少ない（未実施：銚子市、匝瑳市。旧地区単位で実施：香取市）。また、対象者に対する参加率も高くないことから今後のあり方について検討する必要がある。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するとどうか？	☑ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 演芸の内容や送迎バスを増やすことにより参加率は向上する。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☑ 他に手段がある (1) 事務事業名：（ 敬老事業（金婚式） ） (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☑ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 敬老事業（金婚式）を同時開催することで、より多くの方に参加いただける可能性がある。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑦ 事業費の削減余地（表面トータルコストの事業費部分） 事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど）	☑ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 敬老事業（金婚式）と同時開催をして3会場を東総文化会館の1会場にし、パン・お茶の配布をやめることで、事業費削減の余地はある。
	⑧ 人件費の削減余地（表面トータルコストの人件費部分） やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☑ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 敬老事業（金婚式）と同時開催をして3会場を東総文化会館の1会場にすることにより、準備等の人員が削減できる。
公平性評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☑ 公平・公正である ⇒【理由】 市内の70歳以上高齢者全ての方を対象にしているため公平である。

3 評価（Check2）担当課長による評価結果と総括

（1）1次評価者としての評価結果

① 目的妥当性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
② 有効性	☐ 適切	☑ 見直し余地あり
③ 効率性	☐ 適切	☑ 見直し余地あり
④ 公平性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり

（2）全体総括（振り返り、反省点）

高齢者に尊敬の意を表すという事業目的から、より多くの方に参加していただくために金婚式と同時に開催し、1会場で開催することを検討する。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（Plan）

（1）今後の事業の方向性（複数選択可）　※2～3年後を目処にした方向性

- ☐ 目的再設定
- ☑ 事業のやり方改善による成果向上
- ☑ 事業のやり方改善による事業費削減
- ☐ 受益機会の適正化
- ☐ 廃止・休止
- ☐ 行政関与の見直し
- ☑ 事業統廃合・連携（関連事業：敬老事業（金婚式） ）
- ☑ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
- ☐ 費用負担の適正化

（2）改革改善案について　※いつまでに、なにを、どうするのか？

①敬老事業（金婚式）と同時開催をし、1会場で開催する。
②パン・お茶の配布をやめる。
③演芸の内容や送迎バスを増やすことにより参加者の増加につなげる。

（3）改革・改善による期待成果
（廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト 削減	コスト 維持	コスト 増加
成果	向上	○		
	維持			
	低下			

（4）改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策

①東総文化会館の収容人数（約900人）。参加者数が大幅に増えた場合は、3部制（9:00-11:00、12:00-14:00、15:00-17:00）で実施する。
②近隣市の状況からパン・お茶の配布をやめることにご理解をいただく。
③1会場にすることによる来場者の移動手段の確保が課題だが、2会場地区に送迎バスを運行することにより解決可能。